〝視界良好〟和歌山の未来へのポテンシャル

ポストコロナの時代になり、リモートワークや出勤しない働き方など、新しい働き方がスタンダードになりつつある今、さらに良い環境を求めて〝ワーケーションの聖地〟白浜に注目が集まっている。白浜は、温暖な気候で過ごしやすく、千年以上も前から行幸が行われるほどの特別な保養地である。世界遺産である熊野古道や温泉など、豊かな自然と歴史文化に根ざした観光資源があり、さらにストレスフリーで仕事ができるネットワーク環境も備わっている。それらが南紀白浜空港の存在によってさらに際立つことになる。

東京から飛行機で約1時間というアクセスの良さに、空港から町の中心地まで車で5分程という利便性の高さ。さらに県が全国に先駆けてワーケーションの推進に力を注いだことにより、多くの企業から〝聖地〟として注目を集める様になった。そんな中、2022年、南紀白浜空港近くにオープンしたのが、太平洋のダイナミックな景色と空港の滑走路を一望することができるワーケーションに最適な施設〝Office Cloud 9〟だ。「白浜を選んだのは、オフィス賃借や交通費の補助など県や町のサポートが手厚いだけでなく、和歌山の南エリアに大きなポテンシャルを感じたからでした」と語るのは館長代理の小林且典さん。「オフィスの外には美しい白浜の海と空。その開放感は都市部では味わえません。そして海産物を中心に食べ物は新鮮で美味しい。さらに上質な天然温泉もあり、リフレッシュするには最適。だからこそ仕事にも集中できるんです。また施設は入居した企業同士の交流が容易にできるよう、あえて共有スペースを広く作っています。今後は交流イベントも開催する予定です」。

距離的に離れている都市と地方。働き方に対するパラダイムシフトが起き、東京との距離が気にならなくなった今、空港の活性化に取り組む和歌山のポテンシャルは計り知れない。

ワーケーションとは、ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を掛け合わせた造語で、テレワークを活用することで、リゾート地や温泉地など、普段の職場とは異なる場所で働きながら地域の魅力に触れることができる取組です。

❶「建材にはできるだけ紀州材を使用し、和歌山らしさが感じられるデザインを施しました」と話す小林さん。❷施設は津波などの被害を受けにくい高台にあり、太陽光発電システムを備え、停電時もWi-Fiが利用できるなど、災害時の避難拠点としての活用も期待されている。

Office Cloud 9
住所／西牟婁郡白浜町才野1622-1086　電話／0739-33-2330

国際線ターミナル 観光情報の新たな発信拠点に

❸2019年の民営化以降、コロナ禍の影響を受けながらも利用者は増え、2022年は過去最高の旅客数を達成。空港運営会社としては珍しく着地型の旅行事業も手掛けている。❹海外チャーター便に対応した国際線ターミナル。今後はインバウンド誘致を加速させる国際空港を目指していく。❺新しい地域情報発信拠点を目指す1階コンシェルジュエリア。2階はご当地の飲食・物販エリア。「イベントなども開催して、飛行機を利用しない人でも親しめる地域施設にしたい」と語る南紀白浜エアポートの森重良太さん。

南紀白浜空港
住所／西牟婁郡白浜町才野1622-125
電話／0739-43-0095（株式会社南紀白浜エアポート）